成果の説明書

(氏名) 土谷岳史	(学部) 経済

1　重要事項

論文「EU における記憶の政治：ホロコーストの記憶とロマの承認」を『高崎経済大学論集』に寄稿した。イスラエルのガザおよびヨルダン川西岸への攻撃は戦争犯罪などの違法行為を多く含み、ジェノサイドとも批判されるものであるが、ホロコーストの記憶を創設神話とする EU および各国はそれを是認している。本稿では存在論的安全保障という概念を用いながら、EU におけるホロコーストの記憶をめぐる政治について分析し、それとロマの承認の政治との関係を考察した。ホロコーストと植民地主義とのかかわりについて分析が十分でないことが問題をもたらしており、ロマのホロコーストの分析はこの欠落を埋める可能性があるように思われる。

2023 年 9 月に海外フィールドワークとしてゼミの学生をポーランドに引率した。ワルシャワではユダヤ人の生活の痕跡と記憶をゲットー跡の街頭フィールドワークと博物館への訪問等で探究した。クラクフではアウシュビッツビルケナウ博物館やオスカーシンドラー博物館への訪問に加え、強制収容所跡を訪れてその現状と記憶の方法について研究した。この海外フィールドワークの成果は演習 I の後期に論文に反映された。

2　その他の事項

基礎ゼミでは英語論文の読解と能動的探究を両立させるため、グループワークを中心に据え、学生の能動的な参加と深い学びを促すように試みた。

3　次年度以降の計画・抱負

国際文化学会での研究報告とプロジェクトが予定されているので、これまでの研究をさらに発展させてまとめたい。